

シニアのしんか
住み慣れたまちで



専門相談員 佐藤裕司
在宅医療・介護連携サポートセンター
☎66◆60590

長寿課 ☎66◆1105

在宅医療って？

最近、在宅医療という言葉を、新聞やテレビ、インターネットなど色々な場面で耳にすることがあると思います。

病気やけがで自宅療養する場合、病院での入院療養とは違い、支える家族は、多くの不安を感じることと思います。在宅医療は、自宅で療養している方が安心して過ごせるように、在宅医や訪問看護師が気持ちに寄り添って相談のり支援するものです。

在宅療養者が真夜中に容態が急変した時、パニックになってしまいう人もいると思います。その場合、訪問看護を利用していけば24時間電話で対応し、緊急時には訪問看護師が主治医（在宅医）に連絡して、緊急往診などを受けることができます。

いつでも利用できる安心感

台風などの災害で電気や水道が

急に使えなくなると、一気に生活が不自由となり不安になります。

常に電気や水道などのライフラインが使えなくなるこそ、安心・安全な生活を送ることができます。在宅医療も、在宅で療養する上でライフライン同様、大切なものです。何かあった時に相談できるかかりつけ医や、24時間365日対応してくれる在宅医、訪問看護師を見つけておくことが自宅での安心した療養生活に繋がります。

また、自宅での療養生活には、医療のほかに介護や福祉といった、日常生活を支える支援も必要です。ヘルパーなどの介護サービスを上手に活用することで、自宅での療養生活の不安や家族の負担を軽減することができます。

在宅医療・在宅介護の結び役

在宅医療・介護連携サポートセンター（がまほっと）では在宅医療をより身近なものと感じてもらえるように「在宅医療・在宅介護って何？」というテーマで出前講座を行っているので、ぜひご利用ください。

申し込み・問合せ 直接または電話で在宅医療・介護連携サポートセンターへ。

ブレブレのベストショット

私が子どもだった頃、ヒトのご先祖様は毛むくじやらのネアンデルタール人だったし、ティラノサウルスはゴジラみたい尻尾を引きずって歩いていたし、そもそも恐竜ははるか昔に絶滅してしまっていました。それがどうでしょう！今ではネアンデルタール人は私たちとほとんど変わらぬ姿に復元され、ティラノサウルスはさっそうと前傾姿勢で走り回り、そしてなんと、恐竜は絶滅を免れ今も繁栄していたのです。鳥類型恐竜、すなわち鳥として！

科学は日々進歩しています。新たな発見が古い知識を塗りかえ、教科書は常に書き換えられ、私たちの世界観は更新され続けているのです。

地味！でも未来につながる一枚

以前このコーナーでお伝えしたとおり今年6月に小惑星リュウグウに到着した探査機「はやぶさ2」は、その後も順調に観測を続けています。9月21日には、2台の小さな探査ローバーがはやぶさ2から投下され、無事リュウグウに着地しました。いずれもリュウグウ表面を移動しながら順調に探査を進めており、写真やデータを地球に送ってくれています。

そこに写っている、黒々とした

大きささまざまな岩がひしめく写真の、なんとも地味なこと！それでも、人類が新たな地（知）へと踏み出した確かな一歩を示す一枚であり、未来の子どもたちが学ぶ教科書の礎となる一枚でもあります。こういった写真が日を置かずにインターネットで公開されることにも、感動ひとしおです。

生命の海科学館には、リュウグウと関連の深い隕石の展示があります。いずれ解説パネルも書き換えることになるのだからなあ、ななど思いを巡らせつつ、続報を楽しみにしています。



ミネルバーⅡ1のローバー1Aが移動中に撮影したリュウグウ。小惑星表面をホップステップして進むためブレブレの写真ですが、臨場感あふれるショットですね。

生命の海から



館長 山中敦子
生命の海科学館
☎66◆1717